

1 腋窩に発生した脂腺癌の一症例

2  
3 ○相内伸美、加藤 拓、高橋久雄、徳泉美幸、及川友  
4 美、諏訪朋子、島山郁夫（船橋市立医療センター検  
5 査科）

6  
7 【はじめに】皮脂腺への分化を示す腫瘍は稀であり  
8 良性腫瘍として皮脂腺腫(sebaceous adenoma)があ  
9 る。この悪性型が脂腺癌(sebaceous carcinoma)であ  
10 り、皮脂腺腺癌(sebaceous adenocarcinoma)とも呼  
11 ばれる。【症例】43歳、男性。10年前に作業服の縫  
12 目の刺激にて右腋窩に痛みを生じ、次第に腫瘍化形  
13 成され、4～5年前より急に大きさが増大。当院外科  
14 受診、手術となった。摘出標本の術中捺印細胞診が  
15 行なわれた。【腫瘍肉眼所見】腫瘍の表面はカリフラ  
16 ワー状、大きさは10×7cm。また腫瘍の深部にも6  
17 ×5cmの腫瘍を認め、2個の腫瘍とその周囲リンパ節  
18 が切除された。腫瘍剖面では大小の嚢胞性および壊  
19 死性形成がみられた。【捺印細胞所見】壊死およびへ  
20 モジゲリンを貪食した組織球を背景に類円形核で  
21 N/Cの高い基底細胞様集塊を認めた。その細胞集塊  
22 の一部から移行するように痰明な細胞質で微細顆粒  
23 をもつ皮脂腺様細胞をみる。細胞は大きくN/C比が  
24 小さいが核は腫大し、軽度異型を示し核小体を認め  
25 るものもあった。また、大型細胞の中には脂肪滴様  
26 物質を含む脂肪細胞様細胞も小数個認められた。【組  
27 織所見】腫瘍は皮下に存在し、一部皮膚への浸潤も  
28 見られ潰瘍形成を伴っていた。腫瘍は大型の胞巣  
29 状または充実性増殖を示し、その中心にはしばしば  
30 大小の嚢胞形成を呈した。細胞は好酸性細胞あるい  
31 は淡明細胞から成り、一部角化傾向を示す脂腺癌で  
32 あった。深部腫瘍の組織像も同様の所見を示し、そ  
33 の周囲はリンパ組織と被膜により覆われていたこと  
34 よりリンパ節転移と考えられた。しかし同時に切除  
35 された周囲リンパ節には転移を認めなかった。【まと  
36 め】稀な腫瘍ではあるが、全身の皮膚および唾液腺  
37 などにも発生が報告されており、日常検体の中で遭  
38 遇する機会があると考えられた。

39 連絡先：047 - 438 - 3321(内5202)